

# サマチャレ新聞

2014年  
6月24日発行

## 受け入れ先会議開催!!

6月14日サマチャレ  
レンジボランティア  
の受け入れ先会議が  
開催されました。本  
年度のサマチャレは  
の111団体・施設が受  
け入れ先となってい  
ただき、そのうち59  
団体の方にお越しい  
ただきました。

受け入れ先会議は、  
ミニシンポジウムと  
ワークショップの2  
部構成で行われまし  
た。

### ★ミニシンポ ジウム

ミニシンポジウムでは、サマチャ  
レへの参加経験のある高校生、井上  
裕葵さん、小田嶋沙紀さん、阿部和  
紗さんの3人と、ボランティア活動  
を継続的にしている荒井真由美さん  
ご自身も活動者ですが、サマチャレ  
へ昨年娘さんを送り出した保護者で

もある、武野慶仁さん。学校教育の  
一環としてボランティアを推進して  
いる長野県立長野南高等学校の田村  
啓二教頭先生の以上6名の方にシン  
ポジストとして出演していただき、  
さまざまな意見をいただきました。

■サマチャ  
レに参加し  
た3人に質  
問!

なぜサマチャ  
レに参加し  
たのですか?

○初めて  
のときは、  
高校受験の  
ために。し  
かしそこで  
ボランティア  
の楽しさ  
や大切さを感じ、2・3年目と続け  
て参加した。(井)

○将来の夢のためにも、ボランティア  
を通じて、いろんな人とコミュニ  
ケーションをとれたらいいと思っ  
た(阿)

○夏休みをより充実させたものに  
したいと考えていたところ、阿部さ



んに誘われたのがきっかけ。(小)

■サマチャレでは、どんなことをし  
ましたか?

○1年時は児童センター、2年時  
は障がいのある方の施設で、3年時  
は視覚障がいの方へ朗読をする活動  
を経験。中でも、間接的に障がいの  
ある方と関わる活動はとても勉強に  
なった。(井)

○活動者のところに取材にいき、  
かわらばんに記事を書く活動をした。  
活動している方々もみんな笑顔で楽  
しそうなところが印象的だった。  
(阿・小)

■次は、ボランティア活動を継続的  
にしている荒井さんに質問。ボラン  
ティアセンターに来たきっかけは?

最初は興味がなかったけれど、友  
達に誘われて何となく。初めてのと  
きは緊張したけど、「ボランティア」  
という印象も、思っていたよりそん  
なに敷居が高くないんだなと感じ、  
どんどん居心地の良い場所になった。

■最近印象の残っている活動がある  
とお聞きしましたが…

冬に参加した、スノーバスターズ  
という雪かきボランティア活動で、  
とても感謝されたこと。自分でも人  
の役に立つことができるんだと思う  
ことができた。人と接することが苦  
手な私だったが、人との繋がりを感

じた貴重な体験ができた。

■サマチャレに娘さんを送り出した  
武野さんに質問!娘さんがサマチャ  
レに参加したきっかけは?

中学3年生で部活も終わり、時間  
もある娘に「いい経験になるよ」と  
勧めたのがきっかけで、児童センタ  
ーでの活動をしていた。

■娘さんの変化は?

子供たちが寄り  
添ってきてくれた  
り、周りの大人の  
何気ない言葉が嬉  
しかったりしたよ  
うで、サマチャレ  
を終えてから、「子供と関わる仕事  
をしたい」と言われ、とても驚いた。



■田村先生へ質問。ボランティア活  
動って?

高校生は授業の一環として、イン  
ターンかボランティア活動をするカ  
リキュラムを始めた。喜んでもらえ  
る、人の役にたつ、というのはモチ  
ベーションになる。そういった社会  
や人との繋がりを感ずること、今  
の勉強や高校生活は必要なんだなと  
感じてもらいたい。ボランティアは  
仕事ではない。自分の活動によって  
「ありがとう」と言われることが自  
分の原動力になる。それがボランテ  
ィアではないかと。

■田村先生の話を受けて自分たちの活動の共通点はありますか？



○普段の生活とは違い、知らない人からの「ありがとう」は重みがあり、もっとやりたいという気持ちになった。(井)

○長野マラソンのボランティアをした際、ランナーの皆さんに「ありがとう」と言われ、やってよかった、もっと頑張ろうと、自分が元気になった。(小)

○ありがとうと言われている人は嬉しそうだし、見ている自分も嬉しい。(阿)

○受け入れ先の皆さんがいるから、私たちは貴重な体験ができる。受け入れ先のみなさんにありがとうと伝えたい。(武)

■最後に、受け入れ先の皆さんにお伝えしたいことを一言。

○ボランティア活動は普段の何気ない行動から生まれている。いつも通りでお願いします(井)

○サマチャレ参加者は緊張しているので、温かく受け入れてください。(小)

○受け入れ先の皆さんともしっかりコミュニケーションをとりたい(阿)

○人とコミュニケーションが苦手な参加者など、いろんな人がいる。どんどん話しかけてほしい。(荒)

○私も参加したい(武)

○今世の中では、「地元」「地域」がキーワードになっており、受け入れ先の皆さんは地域の力になっていると思います。(田)

会場には、自らも学生時代にサマチャレに参加し、それがきっかけで今の仕事に就き、自らが今受け入れ先になっている方もいました。ボランティア活動が人生のポイントになることもあるんですね。

### シンポジストの皆さん 素敵なお話を ありがとうございました



### ★ワークショップ

後半は受け入れ先の皆さんがグループに分かれ、サマチャレを受け入れていて「よかったこと」「困ったこと

と」「困ったことに対するアドバイス」について、話し合ってもらいました。

どこのグループも真剣に、全体的に和気あいあいとした雰囲気です。上がっていました。良かった意見として多かったものは、「若い方が来てくれることで、施設の利用者の方が自然と笑顔になった」「職員たちが自分たちの仕事を見直すきっかけになった」など、紙に書ききれないほどありました。一方、困った意見としては、「時間に遅れるという連絡がなかった」「携帯電話の使用」など。中でも、「活動者の方たちには何をしたいのか、目的や意図を持って臨んでほしい。教えてほしい」という意見がとても多かったことが印象的でした。どこの施設・団体の方も、「ボラン

ティアの方に多く  
のこ  
を学んでほ  
しい。そ  
のため  
にどうした  
らいいか  
というこ  
とを、真



剣に考えているからこそ、悩みなんだらうと思いました。

受け入れ先はたくさんありますが、施設・団体の色や活動内容はすべて違います。同じ体験ができるなんてありません。シンポジウムを通じて共通することは、

どこに行っても、普段の生活では出会えない人や自分、経験が必ずあり、それを肌で感じる



ことができるとい  
うことではないでしょうか。  
最後に、受け入れ先の皆さんには参加者の皆さんへの熱いメッセージをいただきました。これは申込み開始日から、ボランティアセンターの入り口に貼り出しておく予定ですので、ぜひ見に来てください！

7/1より  
受付開始。  
忘れられない夏  
しよう！